

科目名 (英)	保健Ⅲ Health	年次	2	実務経験	担当	駒木伸一郎
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	金・2～4限
講師紹介	医学博士の資格を持ち、医科大学・医療専門学校・病院などで研究・教育・臨床業務を行ってきた講師が保健科目をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	美容師は頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業であり、特に頭頸部の構造や機能について深い知識を持つことが必要である。そのような知識の基礎となる保健学を学ぶ。					
到達目標	人体の構造及び機能、皮膚科学について理解する。美容師国家試験に合格できるような保健の知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験					
教科書	日本理美容教育センター発行「保健」			事前事後 学習と その内容	事前学習として教科書に目を通しておく。事後学習として配布した練習問題を繰り返し解き、知識の記憶に努める。	
教材	教科書及び配布プリント、解剖模型など					
特記事項	毎回、必ず左胸に名札をつける。中間期末試験時は学生証持参。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	人体の構造及び機能 第8章 消化器系	消化器系のあらまし、消化管の仕組み、消化管の働き、消化と物質代謝について学ぶ。
2	皮膚科学 第1章 皮膚の構造	皮膚の表面・断面、表皮・真皮・皮下組織について学ぶ。
3	皮膚科学 第1章 皮膚の構造	皮膚の表面・断面、表皮・真皮・皮下組織について学ぶ。
4	皮膚科学 第2章 皮膚付属器官の構造	毛、脂腺、汗腺、爪について学ぶ。
5	皮膚科学 第2章 皮膚付属器官の構造 第3章 皮膚の循環器系と神経系	毛、脂腺、汗腺、爪、皮膚の血管・リンパ管・神経について学ぶ。
6	皮膚科学 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄作用、呼吸作用について学ぶ。
7	前期中間試験	前回までに学んだ範囲について中間試験を行う。
8	皮膚科学 第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能	吸収作用、貯蔵作用、免疫・解毒・排除作用、再生作用、毛・爪の働きについて学ぶ。
9	皮膚科学 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と嗜好品、皮膚と体内病変、皮膚の水分と脂の状態を学ぶ。
10	皮膚科学 第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚・付属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ、毛・爪の保護と手入れ、子どもの皮膚トラブルについて学ぶ。
11	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法、皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹、口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害について学ぶ。
12	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	角化異常による皮膚疾患、色素異常による皮膚疾患、血管腫、脂腺母斑、下肢静脈瘤、分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患を学ぶ。
13	皮膚科学 第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	ウイルス・真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍を学ぶ。
14	前期期末試験	前回までに学んだ範囲について前期期末試験を行う。
15	前期期末試験フィードバック	前期期末試験、解答解説、誤文訂正をし自分の苦手な項目を克服する。

科目名 (英)	衛生管理Ⅲ Hygiene management	年次	2	実務経験	担当	渡邊隆
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	金・1限～3限
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	感染症の概要と歴史	感染症とはどういう物であるのかまた先人たちの功績について学ぶ
2	感染症における分類	感染症の3つの分類について分類の特徴とそれに含まれる感染症について学ぶ
3	病原微生物の病原体の違いと特徴	病原微生物であるウィルスや細菌について組織成分や生活環境についての違いについて学ぶ
4	感染症各論 その1	呼吸器感染症について学ぶ
5	感染症各論 その2	消化器感染症について学ぶ
6	感染症各論 その3	血液・接触感染、動物等から感染する感染症について学ぶ
7	中間試験	感染症全範囲
8	消毒の仕組みと	微生物を殺菌、消毒などの言葉の意味と消毒における仕組みを学ぶ
9	理学的消毒法	紫外線、煮沸、蒸気消毒について学ぶ
10	化学的消毒法 その1	エタノールおよび次亜塩素酸ナトリウムの消毒について学ぶ
11	化学的消毒法 その2	界面活性剤2種およびグルコン酸クロルヘキシジンの消毒について学ぶ
12	希釈法 計算方法	カルピスを使って消毒液の希釈法の実際を体験する
13	被消毒物に対して適した消毒法	消毒をするものに対し素材等により最適な消毒法を学ぶ
14	定期試験	感染症および消毒法の全範囲
15	定期試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	化粧品化学 I Physics and Chemistry for Beauty	年次	2	実務経験	担当	我妻優子
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	水・1限、木・1限、2限
講師紹介	現場で実務経験を持つ講師が、美容業界の現場で必要とされる知識、技術を実践的に活用できる授業を行う。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる化粧品についてを学ぶ。					
到達目標	化粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験    □ 実技試験    □ 作品					
教科書	化粧品化学・POINTBOOK			事前事後 学習と その内容	毎回、授業後に語群の問題の宿題あり。(数問)	
教材	適宜配布					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 物質の構成・化学式原子の構造・イオン・化学結合	教科書(付録2～4)
2	溶解、コロイド	教科書(付録4～7)
3	酸と塩基、水素イオン指数、強酸、弱酸など	教科書(付録8～14)
4	化粧品概論	教科書(9～30)
5	化粧品原料、皮膚、爪、口唇の性状	教科書(31～40、付録17～20)
6	化粧品の原料	教科書(41～49)
7	中間試験	第1回から第6回までの範囲
8	界面活性剤	教科書(50～59)
9	色材と香料	教科書(63～73)
10	高分子化合物とその他の配合成分	教科書(60～62、74～84)
11	基礎化粧品・皮膚清浄用化粧品・化粧水	教科書(85～99)
12	クリーム・乳液など	教科書(93～104)
13	メイクアップ用化粧品	教科書(105～121)
14	定期試験	第8回から第13回までの範囲
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	文化論 I Beauty culture theory	年次	2	実務経験	担当	南本和幸
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	水・2限、金・2、3限
講師紹介	美容師免許、美容師養成施設の教員資格取得者、美容文化論の認定試験に合格したものが美容文化の歴史を行う。					
目的 科目概要	美容業の職業人の観点から、美容という職業の歴史を理解し、国家試験科目にかかわる美容文化論の知識を身につける。					
到達目標	美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造実現にあることを理解し、美容という職業の歴史を紐解きながら、社会生活の中でどのような位置づけになっているか、またその役割を解明していく。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験    □ 実技試験    □ 作品					
教科書	美容文化論			事前事後 学習と その内容	事後学習に原点を置くことが望ましい、小テストなどを行うので、間違えたところは必ず、復習をする。	
教材	適材配布					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	総論、理容業・美容業の発生	教科書(6～12)
2	江戸時代の理容業・美容業、近代の理容業・美容業	教科書(13～16)
3	近代の理容業・美容業	教科書(17～24)
4	ファッション文化史日本編 縄文・弥生・古墳時代	教科書(26～30)
5	古代(飛鳥・奈良・平安時代)	教科書(31～39)
6	古代(飛鳥・奈良・平安時代)	教科書(31～39)
7	中間試験	第1回から第6回までの範囲
8	中世(平安末・鎌倉・室町・戦国時代)	教科書(40～45)
9	近世 I (戦国末・安土桃山時代)	教科書(46～52)
10	近世 II (江戸時代)	教科書(53～60)
11	近代(明治・大正・昭和20年まで)	教科書(61～67)
12	現代 I (1945年～1950年代)	教科書(68～75)
13	現代 II (1960年代～1970年代)	教科書(75～83)
14	定期試験	第8.回から第13回までの範囲
15	定期試験の振り返り	定期試験から振り返り、自己の弱点を見直し改善する。

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ Beauty technological theory	年次	2	実務経験	担当	南本和幸
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有		前期
		単位	1			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品					
教科書	美容技術理論1・2			事前事後 学習と その内容	授業の後復習をし、実技では理論を思い出しながらか臨んでほしい。	
教材						
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	第3章 ヘアデザイン 1年生の復習	教科書1(P64～85)
2	第6章 ヘアセッティング	教科書1(P158～191)
3	第6章 ヘアセッティング	教科書1(P192～219)
4	第8章 エステティック	教科書2(P4～18)
5	第8章 エステティック	教科書2(P18～35)
6	今までの復習	
7	中間試験	試験範囲 第6章～第8章
8	第9章 ネイル技術	教科書2(P36～46)
9	第9章 ネイル技術	教科書2(P46～71)
10	第11章 日本髪	教科書2(P112～123)
11	第11章 日本髪	教科書2(P124～133)
12	第12章 着付けの理論と技術	教科書2(P134～151)
13	第12章 着付けの理論と技術	教科書2(P152～181)
14	定期までの復習	
15	定期試験	試験範囲 第9章～第12章

科目名 (英)	運営管理 I Operational management	年次	2	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分 曜日・時間	前期 月・1, 2, 4限
		単位	1			
講師紹介	現役美容師の教員が、運営管理の学習を通じて、将来像やキャリアプランを想像できるような内容で授業を展開する。経営者の視点を持ちつつ、自分がどう選択していくか、今後の人生を豊かに設計できるようになってほしい。					
目的 科目概要	経営者の責任、役割を学ぶと同時に、労働者の権利、働くうえで求められることを学ぶ。顧客満足の実現について学ぶ。					
到達目標	経営管理、税金、社会保険、会計、接客など、身近ではない言葉がたくさん出てきます。かみ砕いた例題を多様するので、言葉の意味をよく想像し、メモを取ったり自ら調べることで引き出しを増やすことになっていく。また、後期に国家試験対策として振り替えられるような、ファイルづくりをする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	授業プリントをファイリングしておくこと。わからない単語が出てきたら、検索をして調べること。	
教材	配布用プリント、ムードル					
特記事項	ファイルを用意してください。(2つ穴のファイルを推奨)					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	授業の説明・経営とは	授業の説明・経営者の責任とは
2	経営資源と経営戦略	経営資源とは何か
3	理容業・美容業の現状と競争	人口推移と美容業界の現状
4	資金管理と会計	資金管理について学ぶ・会計、納税方法
5	税金について①	税金の種類と支払うタイミングについて
6	税金について②	税金をはらわなかったときの罰則について
7	中間試験	1～6回までの内容から 20点
8	人という資源・労務管理	労働三法、労働基準法を学ぶ
9	人をやる気にさせるために	給与・待遇・労働者の権利
10	労働安全衛生法	労働安全衛生法と健康診断
11	健康管理の基本	美容師の仕事とけんこうについて
12	社会保険①	国民年金について(制度・被保険者・給付・保険)
13	社会保険①	厚生年金について(制度・被保険者・給付・保険)
14	定期試験	8から13回までの内容から 50点
15	定期試験・振り返り	定期試験の振り返り

科目名 (英)	美容実習Ⅲワインディング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	宮城裕美
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	有	開講区分	前期
					曜日・時間	月・3, 4限 火・1, 2限 水・1, 2限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験にむけて全頭20分で負けるようにする 概要:衛生の用具や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	美容師の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	必要な用具類は早めに準備し忘れ物のないように臨んでください。	
教材	WD用具一式					
特記事項	用具の使い方や指の動きを自分で分析し確認していくこと					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	国家試験の衛生について	準備物の説明 衛生7分・1分を行う 全頭25分でタイムを計る
2	準備物の確認	衛生7分・1分を行う タイムトライアル25分まで
3	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル25分まで
4	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル25分まで
5	中間試験について	衛生7分・1分を行う 全頭23分
6	中間試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭23分
7	中間試験	衛生7分・1分を行う 全頭23分
8	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル23分まで
9	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う タイムトライアル23分まで
10	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 10分で右側12mm2本目まで 残り10分で全頭を仕上げる
11	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
12	衛生の流れ 国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
13	定期試験について	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正
14	定期試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正
15	定期試験	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正

科目名 (英)	美容実習Ⅱオールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	小坏亜矢子 榎本美咲 蔭割実美
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有		前期
		単位	2			木・1.~.4限 火・1.2限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける					
	概要:国家試験科目である、第2課題オールウェーブ・セッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。					
	■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。	
教材	マニュアル					
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・1年生の復習(4段目まで28分)	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化
2	・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・3、4段目カール8分 / 馬蹄形～4段目カールまで23分 ・衛生について
3	・衛生7分を始める ・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ ・5段目逆リフトカールを覚える	・衛生準備物の確認 ・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 / 馬蹄形～4段目リフトカールまで23分 ・5段目逆リフトカールを作る(5分)
4	・7段ウェーブのクォリティーとタイムアップ ・カールのクォリティーアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 / 馬蹄形～4段目リフトカールまで23分 ・5段目逆リフトカール(5分)
5	・中間試験について ・6段目メイポールカールを覚える	・採点項目を覚える ・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 / 馬蹄形～5段目リフトカールまで23分 ・メイポールカール(3分)
6	・中間試験について ・馬蹄形～メイポールカールまで	・採点項目を覚える ・馬蹄形～6段目メイポールカールまで30分
7	中間試験	試験内容:6段目メイポールカールまで30分 採点・評価・振り返り
8	・国家試験 採点項目について ・7段目クロッキノールカールを覚える	・採点項目の理解と習得 ・7段目クロッキノールカール(4分)
9	・国家試験 採点項目について ・全頭30分	・採点項目の理解と習得 ・全頭30分
10	・国家試験 採点項目について ・全頭30分	・採点項目の理解と習得 ・全頭30分
11	・国家試験 採点項目について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分
12	・国家試験 採点項目について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分
13	・期末試験について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分
14	・期末試験について ・全頭27分	・採点項目の理解と習得 ・全頭27分
15	期末試験	試験内容:全頭27分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容実習Ⅲカット Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 蔭割実美
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	月、火、水・1・2限
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、美容師国家試験に合格するための専門的な知識・技術を習得する授業を行う。実習がメインの授業で、毎回新しい技術を学ぶため、遅刻欠席はしないように臨んでほしい。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験に合格できる知識と技術を習得する。概要:合格基準を理解し、正しいシザー開閉、シェーブ、姿勢を身に付けることが必要。					
到達目標	国家試験第一課題カットの手順を覚えることができる。設定時間内に完成することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書			事前事後 学習と その内 容	シザー開閉の練習を行い、カットのスピードや正確さを高める。動画視聴による予習復習。		
教材	国試カットマニュアル・動画					
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	トップ～バックのヘムライン	ブロッキングを正確にとる。トップ～バックのヘムラインまでを切り、ここまでの手順を覚える。正しい姿勢を覚える。
2	第3ブロック	トップ～バックのヘムラインまでタイム(10分)を計り、手順の確認をする。第3ブロックを切り、ここまでの手順とパネルの持ち方を覚える。正しい姿勢を覚える。
3	衛生準備の導入・第2ブロック	衛生準備7分を覚える。第3ブロックまでタイム(20分)を計り、手順の確認をする。第2ブロックを切り、ここまでの手順とパネルの持ち方を覚える。正しい姿勢を覚える。
4	第1ブロック・チェックカット	衛生準備7分を覚える。第2ブロックまでタイム(30分)を計り、手順の確認をする。第1ブロックを切り、手順とパネルの持ち方を覚える。チェックカットの手順を覚える。正しい姿勢を覚える。
5	全頭カット	衛生準備7分を覚える。エアーカットのタイムを計る。(40分) 全頭カットのタイムを計る。(50分)
6	全頭カット	衛生7分・1分。生全頭カットのタイムを計る。(50分)
7	中間試験	衛生7分・1分。全頭50分で完成させる。
8	中間試験の振り返り・タイム短縮と構成の理解を深める	中間試験の作品を確認する。衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(35分) 全頭カットのタイムを計る。(45分)
9	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(30分) 全頭カットのタイムを計る。(40分)
10	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(25分) 全頭カットのタイムを計る。(35分)
11	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)
12	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)
13	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)
14	定期試験の準備	衛生7分・1分。エアーカットのタイムを計る。(20分) 全頭カットのタイムを計る。(30分)
15	定期試験	衛生7分・1分。全頭30分で完成させる。

科目名 (英)	就職講座Ⅲ Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	金・1限(2組)、4限(1, 3組)
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書						
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャーペンどちらも準備)			事前事後 学習と その内容	スケジュールの管理をしっかりと行い、時間管理・体調管理を整えて授業に臨みましょう。グループワークでは自身の発表を進んで出来るように準備しておきましょう。	
特記事項	メモをする習慣を身につける。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己分析	日常行動スコアシートを使用し、自身のタイプを知りクラス内や社会に出たときにどのような行動をすることが出来るのかを知り、考える。
2	偏愛マップをつくる	偏愛マップの作成をし、グループワークで仲間の特徴を知る。その後、他己紹介としてクラスの仲間の特徴をクラス全体に発表する。仲間の特徴を知り、発表することでプレゼン力を身に付ける。
3	クラス会議	テーマ『ハッピー探し』GWで起きた出来事・自身で行動したことなどハッピー探しをして自己肯定感を高める。
4	面接対策	4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
5	面接対策	前回のチームとは別の4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
6	クラス会議	テーマ『現代社会について、今とこれからで自分たちにできる事』
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『現代社会どのような人材がを求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。 国家試験筆記問題
9	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。 国家試験筆記問題
10	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
11	自分の強みについて考える 国家試験筆記対策	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。 夏休み課題について 国家試験筆記問題
12	グループワーク 国家試験筆記対策	想定した顧客のニーズを満たせる質品を話し合い、売るという軸からブレない力を身に付ける。 例)鉛筆を3万円で売るにはどうしますか 国家試験筆記対策
13	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
14	定期試験 国家試験筆記対策	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内 国家試験筆記対策
15	定期試験振り返り 国家試験筆記対策	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える 国家試験筆記対策

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ撮影実習 Comprehensives beauty technology	年次	2	実務経験	担当	福島裕司 本城実美 杉本萌 岩本理絵 大和田一樹 榎本美咲 足立祐季
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	火・3, 4限
講師紹介	美容室・ヘアメイク現場・ブライダル業界などの各美容業界で活躍しており、高い技術力と多様な知識を持っている講師から、クオリティの高い技術と現場でスキルを学ぶ。					
目的 科目概要	7月20日 1年半の集大成(卒業制作発表会) TBGファイナルコンテスト2021 → 入賞者 5校ベルエポックコンテスト2021出場					
到達目標	①個人作品の完成を目指す ②コンテスト作品以外に、授業開始から作品画像、作品動画、仕込み作品などを集約し、各自ポートフォリア(アルバム作成)を完成させる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材						
特記事項						
授業計画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	ファイナルコンテスト目的と事前準備説明	制作内容説明(プレゼンシート配布、作品作成・アルバム作成について説明) スケジュール説明・過去作品収集とイメージ作り ※モデルハントでの依頼するにあたり、礼儀マナー指導 ※モデルハント開始				
2	コンテスト事前レッスン	専攻ごとに作品案を考える 情報収集(雑誌、 モデルハント後のモデルへの対応を指導(マナー、アポ、スケジュールなど)				
3	コンテスト事前レッスン	テーマ・コンセプトを考える ※モデル決定が望ましい(モデル画像から作品イメージを作る)				
4	コンテスト事前レッスン	モデル衣装、装飾準備を考える				
5	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
6	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
7	中間発表	モデルで総仕上げ 講師からフィードバック				
8	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン、装飾、洋服チェック				
9	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
10	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
11	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
12	ファイナルコンテスト・振り返り	競技、ポートフォリオ(コンセプトシート、画像、準備画像など)				
13	ポートフォリオ制作 作品展示・振り返り	1回～コンテストまでのポートフォリオ作成				
14	個人振り返り 発表	一人づつ前にでて振り返りと発表				
15	総評	講師より総評				

授業計画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	ファイナルコンテスト目的と事前準備説明	制作内容説明(プレゼンシート配布、作品作成・アルバム作成について説明) スケジュール説明・過去作品収集とイメージ作り ※モデルハントでの依頼するにあたり、礼儀マナー指導 ※モデルハント開始				
2	コンテスト事前レッスン	専攻ごとに作品案を考える 情報収集(雑誌、 モデルハント後のモデルへの対応を指導(マナー、アポ、スケジュールなど)				
3	コンテスト事前レッスン	テーマ・コンセプトを考える ※モデル決定が望ましい(モデル画像から作品イメージを作る)				
4	コンテスト事前レッスン	モデル衣装、装飾準備を考える				
5	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
6	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
7	中間発表	モデルで総仕上げ 講師からフィードバック				
8	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン、装飾、洋服チェック				
9	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
10	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
11	コンテスト事前レッスン	モデルレッスン				
12	ファイナルコンテスト・振り返り	競技、ポートフォリオ(コンセプトシート、画像、準備画像など)				
13	ポートフォリオ制作 作品展示・振り返り	1回～コンテストまでのポートフォリオ作成				
14	個人振り返り 発表	一人づつ前にでて振り返りと発表				
15	総評	講師より総評				

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲコース別 Comprehensive beauty technology	年次	2	実務経験	担当	福島裕司 蔭割実美 大和田一樹 足立祐季 我妻優子 福田美幸 武田郁乃
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2			
講師紹介	美容室・ヘアメイク現場・ブライダル業界などの各美容業界で活躍しており、高い技術力と多様な知識を持っている講師から、美容業界の現場で必要とされる知識、技術を実践的に活用できる授業の提供する。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容		
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	文化論 Beauty culture theory	年次	2	実務経験	担当	南本和幸
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	美容師免許、美容師養成施設の教員資格取得者、美容文化論の認定試験に合格したものが美容文化の歴史を行う。					
目的 科目概要	美容業の職業人の観点から、美容という職業の歴史を理解し、国家試験科目にかかわる美容文化論の知識を身につける。					
到達目標	美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造実現にあることを理解し、美容という職業の歴史を紐解きながら、社会生活の中でどのような位置づけになっているか、またその役割を解明していく。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容文化論			事前事後 学習と その内容	事後学習に原点を置くことが望ましい、小テストなどを行うので、間違えたところは必ず、復習をする。	
教材	適材配布					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	現代Ⅰ (1945年～1950年)	教科書(84～90)
2	現代Ⅱ (1960年～1970年)	教科書(91～97)
3	現代Ⅲ (1980年～2000年)	教科書(98～106)
4	古代エジプト～古代ゲルマン	教科書(108～113)
5	中世ヨーロッパ～近世17世紀	教科書(114～127)
6	近世18世紀～近世19世紀	教科書(128～138)
7	中間試験	第16回から第21回までの範囲
8	西洋現代Ⅰ(1910～1950年代)	教科書(139～148)
9	西洋現代Ⅱ(1960～1970年代)	教科書(149～157)
10	西洋現代Ⅲ(1980～2010年代)	教科書(158～162)
11	礼装の種類	教科書(164～170)
12	前期振り返り	教科書(6～67)
13	後期振り返り	教科書(68～170)
14	定期試験	第23回から第28回までの範囲
15	定期試験の振り返り	定期試験から振り返り、自己の弱点を見直し改善する。

科目名 (英)	美容技術理論Ⅴ Beauty technology theory	年次	2	実務経験	担当	鈴木由美子
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	木・1限、金・3～4限
講師紹介	美容師免許・美容技術理論教員資格有・コスメコンシェルジュ・化粧品成分検定上級スペシャリスト・日本ウェディングスタイリスト協会(JWSA)認定講師 長きにわたり美容業界に携わる講師が、現場での実体験を交えながら理論をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる技術の理論、取り扱う器具、薬剤知識を学ぶ。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験    □ 実技試験    □ 作品					
教科書	美容技術理論Ⅰ・美容技術理論Ⅱ・POINTBOOK			事前事後 学習と その内容	必ず復習するようにしましょう。	
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
2	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
3	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
4	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
5	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
6	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
7	中間試験	× 問題
8	4択問題	本番の問題形式になれる。
9	4択問題	本番の問題形式になれる。
10	4択問題	本番の問題形式になれる。
11	4択問題	本番の問題形式になれる。
12	4択問題	本番の問題形式になれる。
13	4択問題	本番の問題形式になれる。
14	4択問題	本番の問題形式になれる。
15	定期試験	4択問題

科目名 (英)	美容技術理論Ⅳ	年次	2	実務経験	担当	鈴木 由美子
	Beauty technological theory	授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	1	有	開講区分	後期
		単位	30		曜日・時間	月・2～4限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験    ■ 実技試験    □ 作品					
教科書	美容技術理論1・2			事前事後 学習と その内容	授業の後復習をし、実技では理論を思い出しながら臨んでほしい。	
教材						
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	○×問題	○×問題 解説
2	○×問題	○×問題 解説
3	○×問題	○×問題 解説
4	語群問題	語群問題 解説
5	語群問題	語群問題 解説
6	語群問題	語群問題 解説
7	中間試験	
8	過去問	過去問 解説
9	過去問	過去問 解説
10	過去問	過去問 解説
11	過去問	過去問 解説
12	過去問	過去問 解説
13	過去問	過去問 解説
14	過去問	過去問 解説
15	定期試験	

科目名 (英)	美容実習Ⅳワインディング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子 蔭割実美 南本和幸
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科・コース	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	木・1, 2限、金・3, 4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:国家試験にむけて目標タイムで巻けるようにする 概要:衛生の準備物や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	国家試験で決められたタイムで全頭巻くことができる 国家試験の衛生の準備物を説明できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	ロッドを1分に3本巻けるように指を慣らしておくといよ。	
教材	WD用具一式					
特記事項	毎回のタイムに集中し仕上がった作品を確認する					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	前期のふりかえり 用具の確認	衛生7分・1分を行う センター5～6分 右側8分 左側6分 全頭20分タイムを計る
2	国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る センター収まりについて
3	国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 左右のシンメトリーについて
4	国家試験スタイル	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る スピードアップのために
5	中間試験について	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る 作品の確認 修正
6	中間試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
7	中間試験	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
8	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
9	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
10	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
11	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
12	国家試験にむけて	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
13	定期試験について	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
14	定期試験の流れ	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る
15	定期試験	衛生7分・1分を行う 全頭20分でタイムを計る

科目名 (英)	美容実習Ⅲオールウェーブ・セッティング Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子 蔭割実美 南本和幸
		授業形態	実習			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	火・3, 4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術をまなび国家試験に合格する力をつける 概要:国家試験科目である、第2課題オールウェーブ・セッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術の向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解、習得できるよう復習する。			
教材	マニュアル		指示があった時にウィックを洗う			
特記事項	マニュアルにたくさん細かい説明等を書き込む。理解できなかつた事は、その日に必ず質問し、理解できないままにしない。					

### 授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ12カノ・カール13分 ・スカルプチュアカールの再確認
2	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ12カノ・カール13分 ・リフトカール、逆リフトカールの再確認
3	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ12カノ・カール13分 ・メイポールカール、クロッキノールカールの再確認
4	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ12カノ・カール13分 ・全頭25分
5	・中間試験のついて ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ12カノ・カール13分 ・全頭25分
6	・中間試験のついて ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ12カノ・カール13分 ・全頭25分
7	中間試験	試験内容:全頭25分 採点・評価・振り返り
8	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
9	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
10	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
11	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
12	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
13	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
14	・国家試験 採点項目について ・全頭25分 ・衛生の強化	・採点項目の理解と習得 ・中心の幅、ノエーン幅、3枚目カブリ取り、リツンの強化 / ノエーンノ11カノ・カール13分 ・全頭25分
15	期末試験	試験内容:全頭25分 採点・評価・振り返り

科目名 (英)	美容実習Ⅳカット Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子 蔭割実美 南本和幸
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	2		曜日・時間	火曜 1・2限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験に合格できる知識と技術を習得する。概要:合格基準を理解し、正しいシザー開閉、シェーブ、姿勢を身に付けることが必要。					
到達目標	美容師国家試験に合格することができる。そのためには、カットの基礎的な知識を理解し、合格レベルに達する技術を身に付けることが大切。さらに、衛生試験もあるので、常日頃から身だしなみ、用具類の整理整頓、準備を心掛けるようにする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書						
教材	国試カットマニュアル・動画。	事前事後 学習と その内容	各ブロックごとのポイントを確認する。シザー開閉の練習を行いカットのスピードや正確さを高める。動画視聴による予習復習。			
特記事項	毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭25分でタイムを計る。
2	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
3	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
4	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
5	タイム短縮と構成の理解を深める	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。
6	中間試験の準備	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。チェックカットを正確に行う。
7	中間試験	衛生7分、1分を行う。全頭20分で正確に切る。
8	中間試験の振り返り	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。中間試験の作品を確認する。チェックカットを正確に行う。
9	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
10	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
11	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
12	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
13	タイム内で正確に完成する	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
14	定期試験の準備	衛生7分、1分を行う。全頭20分でタイムを計る。18分完成を目標にする。チェックカットを正確に行う。
15	定期試験	衛生7分、1分を行う。全頭20分で正確に切る。

科目名 (英)	就職講座Ⅳ Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・コース	美容師科	単位	1	有	開講区分	後期
					曜日・時間	木・2、4限 金・4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	新社会人の基礎力109					
特記事項						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	マネー教育・7つの習慣 国家試験対策	給与や保険について・7つの習慣とは何かを学ぶ 第6章 社会人としての自分を守り高める 選挙権について 国家試験対策問題
2	社会人基礎力を身に付ける① 国家試験対策	チームで働く力をグループワークで学ぶ 国家試験対策問題
3	社会人基礎力を身に付ける② 国家試験対策	新社会人の基礎力109より 『社会人基礎力』とは何か？求められる3つの能力と12の能力要素 国家試験対策問題
4	社会人基礎力を身に付ける③ 国家試験対策	前に踏み出す力/主体性—ものごとに進んで取り組む力 前に踏み出す力/働きかけ力—他人に働きかけ巻き込む力 国家試験対策問題
5	社会人基礎力を身に付ける④ 国家試験対策	前に踏み出す力/実行力—目標を設定し確実に実行する力 考え抜く力/課題発見力—現状を分析し目的や課題を明らかにする力 国家試験対策問題
6	社会人基礎力を身に付ける⑤ 国家試験対策	考え抜く力/計画力—課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 考え抜く力/創造力—新しい価値を生み出す力 国家試験対策問題
7	中間試験	社会人基礎力について(作文) 今まで学んできた社会人基礎力を今後どのように生かしていくか。 国家試験対策問題
8	社会人基礎力を身に付ける⑥ 国家試験対策	チームで働く力/柔軟性—意見の違いや立場の違いを理解する力 チームで働く力/状況把握力—自分と周囲の関係性を理解する力 国家試験対策問題
9	社会人基礎力を身に付ける⑦ 国家試験対策	チームで働く力/規律力—社会のルールや人との約束を守る力 チームで働く力/ストレスコントロール力—ストレスの発生源に対応する力 国家試験対策問題
10	社会人基礎力を身につける⑧ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 社会に出るにあたっての決意を固めておく・3ヵ月頑張れば3年頑張れる 国家試験対策問題
11	社会人基礎力を身につける⑨ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 契約することの重みを知っておこう・悪質な商法にひっかからない、加担しない 国家試験対策問題
12	社会人基礎力を身につける⑩ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 各種保険の知識・賃貸住宅の借り方と住まい方の常識 国家試験対策問題
13	社会人基礎力を身につける⑪ 国家試験対策	第5章 企業人として遵守すべき規範とは なかなかなくなるならない悪徳商法の例Ⅰ・なかなかなくなるならない悪徳商法の例Ⅱ 国家試験対策問題
14	定期試験	2年間の学びの中で自身の成長につながった出来事は何か。また、その経験が今後どのように活かされるか(作文) 国家試験対策問題
15	定期試験振り返り	定期試験の振り返り・国家試験対策問題の振り返り